

北部エリア市民説明会 記録

日	時	令和元年 7 月 6 日（土） 10:00～12:00	場 所	妻沼中央公民館 大会議室
---	---	-----------------------------	-----	--------------

(内容)

発言者	発言内容
	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶</p> <p>(1) 総合政策部長より、熊谷市の公共施設に関する現状と施設再編の必要性について説明を行った。</p> <p>(2) 教育次長より、「熊谷市学校規模適正化」について説明した。</p> <p style="text-align: center;">【主な説明内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 単学級が熊谷市内 29 校中 8 校あるという現状を鑑みて、熊谷市立学校適正規模審議会を立ち上げ「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」を策定した。 ➤ クラス替えが可能であること、②委員会や部活動等の選択肢がある状態を適正とし、『小学校 12～18 学級、中学校 9～12 学級』を基準としている。 ➤ 社会性を高めるために人間関係を構築できることを目的に統廃合を進めることを検討している。子供たちにとってより良い環境を第一に念頭に置いて今後の教育環境の整備を行っていく方針である。 <p>3. 説明・質疑応答</p> <p>(1) 熊谷市の現状と公共施設再編に向けた取組について（資料 1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有限責任監査法人トーマツより、国の動向及び熊谷市の現状と公共施設再編に向けた取組について説明を行った。 <p style="text-align: center;">【主な説明内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 全国的に、少子高齢化に伴い社会保障費が増加し、施設の更新投資等に使用できる投資的経費が年々減少しており、熊谷市でも同様である。 ➤ 高度経済成長期に建設した公共施設が老朽化してきており、今ある施設をすべて建て替えるだけのお金はないため、新しい技術導入や施設の複合化を進めて、より良い公共施設の将来像を考える必要がある。 ➤ 熊谷市の公共施設マネジメントの取組の特徴として、①全庁的・横断的な検討組織を立ち上げ検討している、②5つのエリアに分け、地域性を考慮して検討を行っている、③市民意見等を適宜取り入れて再編方針案を作成しているという 3 点が挙げられる。

市職員

(2) 公共施設再編方針案の概要について（資料2～4）

本市では、これまで、各施設の建物の状態や利用状況を調査するとともに、「公共施設アセットマネジメント基本方針・基本計画や公共施設白書」を策定・作成し、検討を進めてまいりました。基本方針では、本市の人口推計、財政推計に基づき、建物の延床面積を40年間で43%削減することを想定しています。そして、現在国からは、全ての公共施設を対象に、それぞれの公共施設のあり方を定める「個別施設計画」を策定するよう要請されているところです。

また、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、平成29年度、「どうする？どうなる？市の施設」と題して、市報に1年間の連載で、熊谷市のこの問題を掲載し、現状の周知とともに、ご意見を伺ってまいりました。このような状況の下、市民の皆様の考えを伺うため、平成26年度、29年度と市民アンケートを実施し、29年度には市民説明会、30年度には市民ワークショップを開催してまいりました。

以上のような取組を経て、これまでいただいたご意見や各施設の調査・検討により、全ての施設の今後の方向性を示す「個別施設計画」の今年度末の策定に向けた、たたき台として、現時点の公共施設の「再編方針案」を資料2のとおりまとめましたので、その概要を報告させていただきます。

【資料2】

資料の1ページ「1の再編方針案の基本的な考え方」ですが、(1)これまで策定した「基本方針」や「基本計画」に基づき、老朽化した施設を減らす代わりに、市民ニーズに合致した施設の新設・集約を実施し、同時に公共交通の充実と、民間施設の活用も推進することで、熊谷市の将来を見据えたメリハリのある再編方針案とすることを目指しました。

(2)「市民の考え方」の反映につきましては、既に申し上げたように、市民アンケートや、市民説明会、市民ワークショップでのご意見を踏まえて、この案を作成しました。

(3)「建物」は減らしても「機能」を存続させ、市民サービスの維持と利用者の活動の場を確保します。

(4)会議室などの「専用部分」をできるだけ存続させ、事務室、廊下などの「共用部分」を圧縮し、施設複合化のメリットを生かします。

(5)管理運営費のかかる「小規模施設」を廃止・集約し、新しい施設への統合・複合化で、効率的な運営を目指します。

(6)修繕費のかかる「老朽施設」を除却し、更新等を推進することで、維持費の削減するとともに、新しい施設によるサービスを提供してまいります。

(7) 大規模修繕を未実施の施設の場合、総合的に判断して、高額な大規模修繕工事を見送り、新たな施設への更新を進める方が有効な場合には、更新時期の前倒しも検討します。

(8) 「耐震化」を早急に達成することで、利用者の安心・安全の確保を図ります。

続きまして、2ページをご覧ください。「2の再編方針案を実行した場合の効果」ですが、現時点の検討・試算では、40年後の延床面積は約33%の削減を見込んでいます。

次に、その下の「3 施設分野別の考え方及び主要事業」では、ハコモノ施設を17の分野に分け、施設分野別に、主要施設の今後の方向性を掲げています。この方向性の根拠は、それぞれの施設・建物の耐用年限や老朽化の状況、大規模修繕等の実施履歴、耐震化の状況、利用状況、民間も含めた同種・類似の施設の市内での分布状況、機能確保のため、複合化・集約する施設間の調整、複合化・集約後の利用者の利用機会・選択肢の確保の可能性、国等の補助金に係る財産処分の制限期間、指定管理期間、等を考慮しつつ取りまとめたものです。なお、記載された年度や期間は、工事等の事業期間ではなく、供用開始や廃止の予定や見込みの時期です。また、今年度、策定する「個別施設計画」では、国から、起債や交付税措置などの財政支援を受けられることから、計画期間である最初の10年間は、具体的に、年度ごとの各施設の対応を掲載しなければなりません。その後の11年目以降については、人口推計や施設の状況も変化することから、5年から10年の幅を設けた「第何期」というような期間で記載しております。

まず、(1)「学校施設」では、「市立学校の適正な規模に関する基本方針」に沿って、①学習環境改善のための規模適正化を図るため、小学校優先、児童生徒数の少ない学校優先での統廃合を考えております。②閉校となる学校の体育館は、地域体育館として有効活用を図ります。③学校のプールは、利用日数と老朽化を踏まえ、校外方式の水泳授業の順次導入を考えています。④学校給食施設は、現在のセンターの老朽化を踏まえ、学校間の公平性や効率的な運営を図るため、新センターを整備し、自校式については、順次新センターへ統合していくものです。

学校の適正規模化につきましては、「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」に沿って、小学校は12学級から18学級、中学校は9学級から18学級を基準としています。そのような方針で、3ページの表に記載しましたとおり、小学校では、6学級57人の星宮小と成田小の統合を2023年、6学級70人の男沼小と6学級145人の太田小と6学級138人の妻沼南小の統合を2025年、

6学級 89人の秦小と長井小の統合を2027年、そして、6学級 152人の市田小と吉岡小との統合、また中学校では、6学級 123人の吉岡中と大里中との統合を2029年と想定しています。3ページの表は、児童生徒数の現状とこれからの推計を基に、取りまとめた「たたき台」として掲載しているものです。既に固まっている、決定しているものではございません。なお、ここに掲げました学級数・児童生徒数は、本年5月の人数であり、実際に統廃合を実施する時点では、更に減少していることを想定しております。それ以降も、統合案を掲載しておりますが、今後も、児童・生徒数の推移や、校舎の状況も注視しながら、見直し、検討していくものです。

次に、4ページの「(2) 市民文化施設」は、5ページの表のとおり、各エリア・地域の様々な貸館施設等を集約し、エリアごとに(仮称)生涯活動センターを新たに整備することで、拠点的な機能を中核に、多様な機能を整え、幅広い世代が集える、市民活動や社会教育の拠点としていくことを想定しています。この予定地・候補地については、固まっているものではございません。施設の種類・機能等によって、開発や建築の条件・制約が課せられますので、施設内容を具体的に検討する中で、候補地が決まることをご了解いただきたいと思います。

次に、6ページから7ページの(仮称)地域拠点施設整備事業は、広域的に、施設の統合・集約を進める中でも、地域における必要性を考慮し、現在の地域公民館等の貸館機能を、地域の小学校等に移転し、体育館とともに、各地域への存続を図るものです。公民館機能等を引き継ぐ生涯活動センターとともに、役割分担して、現在の施設機能の受け皿とすることを想定しています。なお、各地域貸館施設の供用開始予定年度は、その前身となる公民館等の存続期間等により異なります。また、老朽化の進んだ公民館の機能移転を想定するとともに、利用実態を踏まえた地域コミュニティセンター等の地元譲渡も想定しています。

資料2の1番後ろにある「参考資料」をご覧ください。学校統廃合と公民館等の再編のイメージです。左側の「統合前」のA小学校、B小学校が統合した場合、中ほどの「統合後」にあるように、上にある新AB小学校に児童は移ります。B小学校だった児童は、統合後の小学校までの通学距離等を考慮し、必要に応じ、スクールバスで新AB小学校へ通学することを見込んでいます。また、図の右下にある各地域公民館は、右側の中ほどにある、世代間の交流を図ることのできるエリアごとの(仮称)生涯活動センターへの統合を進めるとともに、小規模な貸館部分については、各地域の拠点施設である新AB小学校、及び旧B小学校敷地内等への地域貸館施設の整備等を検討してまいります。現

在ある小学校は、閉校となる場合であっても、その後も地域の拠点施設となることを想定しています。

資料に戻りまして、7ページの(3)子育て支援施設のうち、保育所については、現在の保育需要が高い中で、老朽化した保育所の更新を、統合により実施しようとするものです。また、既存の児童館に替えて、雨天時も子供を元気に遊ばせることのできる(仮称)こどもセンターの整備を想定しています。総合保育所とともに、蚕業試験場跡地ひろばに、(仮称)総合子育て支援施設としての整備を想定しています。

(4)保健福祉施設のうち、保健センター等の保健施設については、老朽化した(耐震性にも課題のある)母子健康センターの建替えと成人保健と母子保健の統合による保健・健康指導サービスの向上、また、業務の効率化の視点から、3つの保健施設の妻沼保健センターへの機能集約を想定しています。老朽化した(耐震性にも課題のある)休日・夜間急患診療所も、蚕業試験場跡地ひろばの(仮称)総合子育て支援施設への併設を想定しています。そうすることで、保育所・児童遊戯施設・急患診療所の併設による相乗効果が期待できます。

次に、(5)庁舎等として、本庁舎建替え時には、分庁舎方式を廃止し、本庁機能の集約による業務効率化を図る一方で、必要に応じ、(仮称)生涯活動センター内に、行政センター機能の受け皿となる出張所を設置することで、市民の利便性も確保していく予定です。また、事務所的な建物についても、業務の効率化や委託化の推進により、順次廃止してまいります。

(6)消防施設は、老朽化・耐震性(・災害時)の機能維持等に課題のある大里分署と江南分署の機能を、南部エリア全体の消防力向上の視点から、移転集約することを想定しています。消防団車庫については、近隣の常備消防施設や地域拠点への併設を検討することとします。

(7)ホールは、適切な規模・グレードの施設1か所への集約を想定しています。将来的には、さくらめいと更新時に、規模・機能・再配置を検討したいと考えています。

9ページの(8)図書館は、人口分布等を踏まえた現状からの再配置を検討することとし、将来的には、西部エリアの図書館整備も想定しています。

(9)博物館的施設は、歴史・民俗、美術、埋蔵文化財のテーマ別の施設再編を検討することとしています。

(10)水浴施設は、アクアピア、健康スポーツセンター、老人福祉センターですが、市民アンケートの結果、老人福祉センターの老朽化も踏まえ、全年齢層向けの屋内型の温水浴と冷水浴が可能な施設：お風呂とプールを併設した施設を整備し、学校のプールの代替機能を確保するとともに、子どもから高齢者

にわたり、世代間の交流が期待できる施設とすることを想定しています。なお、スーパー銭湯やスイミングクラブ等の民間施設の利用も想定してまいります。

(11) 公園・スポーツ施設では、さくら運動公園の屋外プールは、老朽化や利用日数を踏まえて廃止し、アクアピアへ機能移転することを想定しています。更新時期を迎える市民体育館については、くまびあ体育館への機能移転も考慮しながら、市民体育館周辺の再整備を検討していきたいと考えています。老朽化が進む勤労者体育センターや妻沼運動公園体育館を含む地域体育館は、学校統廃合の進捗に伴う学校体育館からの転用による体育施設の増加を見込み、廃止又は更新を検討したいと考えています。

10ページの(12) 産業施設は、利用者・民間・地元等との協議・調整に従って整理・再編します。可能なものは、民間譲渡を検討してまいります。

11ページの(13) 人権施設では、春日文化センターや集会所は、耐震性や老朽化、利用者数を考慮しながら存続の可否を検討してまいります。

(14) 環境施設は、旧妻沼清掃センターを除去し、その跡を災害時のストックヤードに想定しています。

(15) 防災・河川施設は、水防倉庫等、防災施設のため全て存続させます。

(16) 公共交通施設等では、本町駐車場は、運営改善方策を検討しながら、当面存続させることを想定しています。その他の駐車場・駐輪場は存続を想定しています。

12ページの(17) 葬斎施設は、今後の利用の傾向を見据えながら、設備の増減を検討するとともに、指定管理者の導入も検討します。

以上が、施設分野別の方向性・考え方ですが、個々の施設には、耐用年数、建物の状況等の違いがあり、集約する場所やタイミング、方法についても、複数の既存施設の調整が必要であり、開発・建築等に関する課題も残っています。施設の再編については、本市の人口推計、今後の各エリア・地域の状況の変化も踏まえまして、定期的に、必要があれば毎年度でも、個別施設計画を見直していく予定です。「4の市民への説明や公表方法」ですが、このようなエリア別の市民説明会を、6月議会終了後から開催しています。また、今後おおむね10年以内に学校統廃合などで地域・小学校区の施設の機能が、他の地域に移転することが想定される地域を対象として、主に地域施設を対象とする説明会を開催していきます。市民説明会で市民の皆様のご意見を伺い、熊谷市にとって、地域にとって、市の施設のあるべき姿はどのようなものであるか、市民の皆様と共に考えてまいります。資料2の説明は以上です。

【資料3】

続きまして、資料3の施設配置図について説明します。こちらの資料は、熊谷市全体図で、施設の移転等を示したものです。こちらの北部エリアを中心に説明しますので、1枚めくっていただき、右上に図1とあるものをご覧ください。

「小中学校」の再配置では、小学校の統合として、男沼小と太田小と妻沼南小の統合を2025年に、妻沼南小の位置で想定しています。秦小と長井小の統合を2027年に、長井小の位置で想定しています。そして、中条小と奈良小の統合を第2期2030年から2034年の期間に、奈良小の位置で想定しています。中学校では、第2期2030年から2034年の期間に、中条中と奈良中の統合を、中条中の位置で想定しています。また、妻沼東中と妻沼西中の統合を、第3期に、妻沼東中の位置で想定しています。

まず、太田小、男沼小、妻沼南小の統合を、妻沼南小の位置に統合とした理由としては、妻沼南小が校舎が新しく、敷地面積が広いことがあげられます。また、長井小と秦小では、長井小の方が児童数が多く、敷地面積が広いことが挙げられます。中条小と奈良小では、奈良小の方が児童数が多く、敷地面積が広いことが挙げられます。中条中と奈良中では、中条中の方が敷地面積が広いことが挙げられます。妻沼東中と妻沼西中では、妻沼東中の方が生徒数が多く、敷地面積が広いことが挙げられます。

次に、図2の公民館等の「市民文化施設」では、エリアごとに新設する（仮称）北部生涯活動センターを、現在の妻沼中央公民館の位置を候補地の1つとして、第3期に整備を想定しています。また、各地域の公民館は、生涯活動センターが整備されるまでは、現在の建物の耐用年数等を踏まえながら、存続させ、その後、地域貸館施設として、小学校の校舎や敷地内に設置・整備を想定しています。建物が古い、妻沼公民館は、めぬま農業研修センターへ、奈良公民館は、アグリメイトへの機能移転を検討・想定しています。

続きまして、図3の「子育て支援施設・保健福祉施設」をご覧ください。保育所では、老朽化している上須戸保育所と中条保育所を、それらの間にある市有地に、（仮称）北保育所として統合・整備することを想定しています。また、市内中央にある熊谷保健センターと母子健康センターを、妻沼保健センターの位置で施設機能を集約することを想定しています。

続きまして、図4の「庁舎等・消防施設」については、第3期の2044年までに、妻沼庁舎の本部機能を、市役所庁舎へ移転し、出張所機能を、（仮称）北部生涯活動センターに導入することを想定しています。消防の妻沼分署は存続します。

続きまして、図5のホール・図書館の「社会教育施設」は、妻沼中央公民館

の大ホール機能を含め、市内の全ての固定席のホールを第3期に集約します。博物館的施設は、市内の歴史・民族関係、荻野吟子記念館も含め、妻沼展示館に集約することを想定しています。妻沼図書館を北部エリアの図書館として更新を想定してします。

続きまして、図6-1の「水浴施設」では、プールや老人福祉センターを示すものですが、学校のプールは、校外方式への移行で順次廃止します。また、老人福祉センターひかわ荘は、プールを併設した（仮称）アクアピア4への更新を想定しています。

続きまして、図6-2の「屋内スポーツ施設」は、妻沼運動公園体育館の更新の検討、第4期までに武道館の熊谷運動公園等への機能移転を想定しています。統合・移転した小中学校の体育館は、地域体育館としての活用を想定しています。

続きまして、図7は「産業施設」ですが、めぬま道の駅のめぬま物産センターの民間による建て替えとともに、めぬまアグリパークの更新、めぬま有機センターの廃止の検討などを想定しています。

以上が、資料3の北部エリアの施設の再配置となります。

【資料4】

続きまして、資料4の各公共施設のフローチャートについて説明します。こちらの資料は、小学校区、または統廃合を予定する小学校区のグループごと、時系列で、各施設の修繕・統合・移転・廃止等を示したものです。こちらの北部エリアを説明しますので、20ページをご覧ください。

まず、男沼、小島、太田、妻沼南小学校区にある施設についてです。「①妻沼南小」は、「④男沼小」、「⑨太田小」との統合を、2025年に、妻沼南小の位置で想定していますので、必要となる範囲の改修等を想定しています。「学校プール」については、全市的に同様な考え方ですが、校外方式の水泳授業導入後、廃止・除却を想定しています。

「②新学校給食センター」は、老朽化する現在の給食センターの建替えを予定しており、新センター整備後は、妻沼及び大里地区の自校式は、センター方式に切り替えていきます。

「③アクアピア4」は、北部エリアに整備を想定していますが、例えば老人福祉センターひかわ荘付近への整備の場合は、プールを先行整備するケースなども、検討していきます。

「④男沼小」は、2025年に、「①妻沼南小」との統合を想定し、統合後は、「体育館」は、「地域体育館」としての利用を想定しています。2つ下の「⑦

（仮称）北部生涯活動センター」は、市内の各エリアごとに、公民館機能等を集約し、コミュニティセンターや市民活動支援センターとしても利用することのできる生涯学習や市民交流を図るための施設として、新規整備するものですが、現在のところ、妻沼中央公民館跡地への整備等を想定しています。

戻りまして、「⑥男沼公民館」は、建物の耐用年数を踏まえながら、当面の間、継続利用を想定しています。その後、公民館機能は（仮称）北部生涯活動センターに移転しますが、地域の活動の拠点として「⑤（仮称）男沼会館」を男沼小学校跡地に整備することを想定しています。「⑨太田小」も、2025年に、「①妻沼南小」との統合を想定し、統合後は、「体育館」は、「地域体育館」としての利用を想定しています。

21ページをご覧ください。「⑪（仮称）妻沼南会館」は、第4期に新設を想定し、1つ飛んで「⑬太田公民館」は、建物の耐用年数を踏まえながら、当面の間、継続利用を想定し、その後、公民館機能は北部生涯活動センターに移転しますが、地域の活動の拠点として、「⑫（仮称）太田会館」を、太田小学校跡地へ整備することを想定しています。「⑭妻沼中央公民館」は、建物の耐用年数を踏まえながら、当面の間、継続利用を想定し、「⑮（仮称）北部生涯活動センター」への移行を想定しています。

妻沼児童館内の「⑰妻沼南児童クラブ」と「⑱子育て広場なかよし」は、児童館の建物の耐用年数を踏まえながら、「⑲新妻沼南児童クラブ」等への移行を想定していきます。「⑲めぬま農業研修センター」は、第3期に除却を想定しています。

「⑳（仮称）妻沼会館」は、この後の妻沼小学校区で説明します。

「㉑太田児童クラブ」は、現状の校舎内の施設から、需要や必要に応じて、体育館への併設等を検討しています。

「㉒小島小・中」は、現在休校となっていますが、校舎は2024年に廃止し、体育館は地域体育館としての活用を、「㉓小島公民館」は、第2期後半に、「㉔（仮称）小島会館」として、体育館への併設を想定しています。

22ページをご覧ください。「㉗妻沼西中」は、「㉘妻沼東中」との統合を、第3期に想定しています。また、それぞれの学校給食施設は、「㉙新学校給食センター」の整備後、センター方式に移行します。

「㉚妻沼児童館」は建物の耐用年数を踏まえて、第4期に廃止し、「㉛（仮称）こどもセンター」に機能移転します。

「㉜妻沼中央地域コミュニティセンター」は、利用実態を踏まえ、地元と協議し、譲渡を想定しています。

「㉝妻沼運動公園体育館」は、建物の老朽化や、学校統廃合に伴って増加し

ていく地域体育館の供給状況も踏まえ、2026年までに、更新するかどうか検討していきます。

23ページをご覧ください。次は、長井、秦小学校区です。「①長井小」は、2027年に「⑦秦小」との統合を、長井小の位置で想定していますので、必要な修繕の実施を予定しています。自校式の「給食施設」は、「②新学校給食センター」整備後、センター方式に移行する予定です。「学校プール」は、校外方式の水泳の授業を導入し、廃止・除却する予定で、「③（仮称）アクアピア4」の水浴施設の活用も見込まれます。

1つ飛んで、「⑤長井公民館」は、施設の状況を踏まえながら、当面の間、継続利用を想定し、第3期に、公民館機能は「⑬（仮称）北部生涯活動センター」に移転しますが、地域の活動の拠点として「④（仮称）長井会館」の長井小学校体育館への併設を想定しています。

「⑥長井児童クラブ」は存続を想定しています。「⑦秦小」は、2027年に「①長井小」との統合を想定し、秦小体育館は、その後も地域体育館としての活用を想定しています。

1つ飛んで、「⑨秦公民館」は、施設の状況を踏まえながら、当面の間、継続利用を想定し、第4期に、公民館機能は「⑬（仮称）北部生涯活動センター」に移転しますが、地域の活動の拠点として「⑧（仮称）秦会館」の秦小学校体育館への併設を想定しています。

「⑫（仮称）アクアピア2」は、「③（仮称）アクアピア4」と同様な施設ですが、アクアピア4よりも、早期に整備を予定しているため、学校プールの代替機能も担えると想定しております。

「⑬（仮称）北部生涯活動センター」は、第3期に整備予定で、「⑭妻沼中央公民館」は、それに機能移転することを想定しています。

24ページをご覧ください。「⑬向野地域コミュニティセンター」は、利用実態を踏まえ、地元と協議し、譲渡を想定しています。

「⑭（仮称）北保育所」は、「⑮上須戸保育所」と「中条保育所」を、2027年に統合し、新設を想定しています。「⑯上須戸児童館」は、集会所と合せて方針を決定していきます。

「⑰西城就業改善センター」、「⑱八ツ口集会所」、「⑲善ヶ島集会所」は、利用実態を踏まえ、地元と協議し、譲渡を想定しています。「⑳妻沼東中学校」は、「㉑妻沼西中学校」との統合を、妻沼東中の位置で、第3期に想定しています。

「㉒新学校給食センター」の整備後は、妻沼東中・西中の自校式給食を、センター方式に切り替える予定です。

25ページをご覧ください。中条・奈良小学校区です。「①奈良小」は、「③中条小」との統合を、第2期後半に、奈良小の位置で想定しています。「②奈良児童クラブ」は、存続を想定しています。

「③中条小」は、第2期後半に、奈良小と統合し、体育館は、地域体育館としての活用を想定しています。

1つ飛んで、「⑤中条農村センター・中条公民館」は、施設の状況を踏まえながら、当面の間、継続利用を想定し、第3期に、公民館機能は、「⑨スポーツ文化村（くまびあ）・（仮称）第3中央生涯活動センター」に移転しますが、地域の活動の拠点として「④（仮称）中条会館」の中条小学校体育館への併設を想定しています。

「⑥奈良公民館」は、建物の老朽化を踏まえて、2023年に、「⑦農業活性化センター」へ機能移転することを検討しておりますが、いずれ公民館機能は、「⑧（仮称）北部生涯活動センター」、又は「⑨スポーツ文化村（くまびあ）・（仮称）第3中央生涯活動センター」への移転と、地域の活動の拠点として「（仮称）奈良会館」への機能移転を想定しています。

2つ飛んで「⑩新中条児童クラブ」は、「中条小」の統合移転後、「⑪中条児童クラブ」の機能を確保することを想定しています。学校プールにも活用できる水浴施設の「⑫（仮称）アクアピア2」は2025年、「⑬（仮称）アクアピア4」は第3期に整備を想定しています。

26ページをご覧ください。「⑭中条中」は、「⑮奈良中」と第2期に、中条中の位置で、統合することを想定しています。統合後の奈良中体育館は、地域体育館として活用を想定しています。「⑯⑰のアクアピア4及び2」は、学校の水泳授業での活用も想定しています。

「⑱（仮称）北保育所」は、「⑲中条保育所」と「上須戸保育所」を統合して、新規に整備することを想定しています。

27ページをご覧ください。妻沼小学校区です。「①妻沼小」は、存続を想定しておりますが、「②新学校給食センター」の整備で、自校式給食施設を廃止し、また、「③（仮称）アクアピア4」の活用等で、校外方式の水泳授業を導入し、プールを廃止する予定です。

「④妻沼児童クラブ」は、存続を想定しています。

「⑤（仮称）妻沼会館」は、地域拠点施設として、妻沼小体育館に併設を想定しています。

「⑥妻沼東中」は、「⑦妻沼西中」と第3期に、妻沼東中の位置で、統合を想定しています。こちらも「②新学校給食センター」の整備で、給食施設を廃止し、校外方式の水泳授業の導入でプールを廃止する予定です。

	<p>3つ飛んで、老朽化する「⑩妻沼公民館」は、「⑩めぬま農業研修センター」の一部への機能移転、そして、「⑨妻沼中央公民館」跡地ほかに整備予定の「⑧（仮称）北部生涯活動センター」への機能移転を想定しています。</p> <p>右側の28ページをご覧ください。「⑫から⑬の妻沼東にある地域コミュニティセンター」は、利用実態を踏まえ、地元と協議し、譲渡を想定しています。資料4の説明は、以上です。</p>
市職員	<p>(3) 質疑応答</p> <p>これまでの説明に対して、ご意見・ご質問をお願いします。ご意見・ご質問がある際は、手を挙げていただけますと、マイクをお持ちいたします。こちらの会場12時までなので、簡潔な質問をよろしくお願いします。</p>
市民	<p>皆さんの考えている将来のあるべき姿というものは、資料のどこを見ればわかるんですか。また、資料でもらった内容よりも非常に大切なことを伝えられているため、皆さんが話している説明箇所は、どこに載せているのか。もしあるのならいただきたい。今回の説明会で説明したからと言っても年寄りなので、忘れる。配布資料に記載している文章は、お役人言葉なのでわかりづらいため、今回説明に使った配布資料以外に資料があればいただきたい。</p>
市職員	<p>まず、1点目のあるべき姿、今回の公共施設再編方針のあるべき姿というものは、基本的な考え方の部分では、資料2の1番、(1)の部分が基本的な考え方になります。</p>
市民	<p>資料2のような配布資料を読んでも、内容がわからない。どういうふうにして変えたいのか、パッと見てわかるようにしてほしい。どこをみたら、わかるのか。わかりやすく、1枚にまとめてほしい。</p> <p>考え方は文章にしてまとめているようだが、文言が非常にわかりづらく、口頭にて大切なことを説明しているので、発言録等を提供してほしい。</p>
市職員	<p>まず、1つ目の質問のあるべき姿というのは、資料2にて文章体で記載しています。また、資料3は広域的な施設、小学校区ごとの地域にある施設を資料4にそれぞれ記載しています。熊谷市の施設数は多いため、全ての図にまとめて載せることが不可能であるため、施設ごとに分けてまとめています。この後、説明会で検討が進んでいきましたら、また最終的な資料の作り方を検討させていただく予定です。今日説明した説明文につきましては、説明会の開催状況ということで、話し口調の文言で説明内容を載せられるよう</p>

	にしたいと考えています。
市民	ホームページで見れない人は、どうするんですか。
市職員	公民館や行政センターで閲覧できるようにしたいと考えています。
市民	広報にて配ることはできないのか。
市職員	いただいた意見を全て掲載はできないので、広報への掲載方法について検討していきたいと思っています。
市民	どなたが書記で、議事録を録っているのか。
市職員	職員がとっています。
市民	だから、どなたですか。
市職員	職員複数人で録っており、私もとっています。
市民	前の方と重複するかもしれないが、説明の中で、施設数が多いということ を伝えたいのかもしれませんが、小学校を統合してしまった場合、小中学生 が、どうになってしまうのか。小学校の教育というのは、日本がここまで発展 したのは、学校教育が大きいと思っている。だから、どんな犠牲があっても 教育だけは、縮小してしまうのは、いけないのではないか。市役所の新設で あったりちゃんと考えるべきではないか。そもそも基金はあるのですか。
市職員	今日お見せした資料は平成 27 年に策定されたアセットマネジメント基本 方針からの抜粋で使用しています。施設数を多く見せようと思っているので はなく、客観的に施設数を確認しようという意図でまとめています。
市民	データがないということですか。
市職員	データはあり、もちろん、アップデートもあります。
市民	現在との比較とか、全国との比較を実施しているのか。
市職員	他との比較は、資料には載せていませんが、少ないとは言えないのではな いかと思います。本市を含む合併自治体では施設数が多くなる傾向がありま す。基本方針、施設白書などはホームページに掲載しているので、ホームペ

市職員	<p>ージからご覧になっていただけたらと思います。</p> <p>2つ目の質問の小学校・中学校については、明治、大正、昭和、平成、そして令和と続いてきた学校の役割、教育の大事さ、これは本当におっしゃる通り大事だなと思っています。ただ統合しても、その教育内容、教育水準の維持というのは、今までと変わらないようにやっていきます。統合によって、教育水準、教育内容が下がることのないように、これから検討していきたいと思っています。</p>
市職員	<p>最後のご質問、庁舎の関係については、これからの20年後の更新の方針で考えております。現在地で考えていく方針です。基金の話になりますと、公共施設建設基金というものがございまして、約90億円ございます。いままで積み立ててきた基金は、このようなアセットで更新や修繕という部分で充てていこうと思います。</p>
市民	<p>先の質問の趣旨をご理解していただけないのではないかなど。施設が550とか小学校48がピンとこないけども、みなさんはピンとこないかもしれないけど、何に対して多くて、それで何に比べて多いとか、さっきの質問の答えだと、ホームページにデータ式がありますよっていうんだったら、そういう風な説明をしていただけたらいいんじゃないかと思う。それに合わせて、資料1なんですけど、熊谷市の現状を知れる1番大事な資料だと思うが、このアセットマネジメントの基本方針策定時のため2015年時点のことを言ってると思うが、例えば、資料6ページに人口約20万人が2010年にあるが、矢印の位置が違って、2015年につくんじゃないですか。間違いですよ。アセットマネジメント基本方針策定時点のデータに対してで、次のページで現在の約65%縮小と言ってますけど、現在というのを2015年から2019年に直せばいいじゃないですか。基本的な説明のところを直した方がいいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
市職員	<p>2番目の質問からお答えします。資料1については、2015年の基本方針策定時のデータを基に作成しています。アセットマネジメント基本方針を長期計画のとして進めていくんですが、最新の1つ前の平成22年度国勢調査を基に国立社会保障・人口問題研究所（社人研）から出ている将来の推計人口を利用して基本方針や基本計画を策定しています。現在も当時のデータが使用されております。来年度、基本方針等を見直しまして、最新の平成27年度国勢調査をもとに修正します。国勢調査が5年ごとですので、少し空いてしまいますが、5年ごとに人口推計などを見直していければと思っています。次に、施設数のデータとの比較の関係については、公共施設白書にまとめていますが、具体的に学校の数で言いますと、例えば、現在の小中学校の数な</p>

<p>市民</p>	<p>のですが、熊谷市だと、小学校 30、中学校 17 と統計上は出ています。隣の深谷市ですと、小学校 19、中学校 10 と出てます。小学校 1 校当たりの子供の数で比較しますと、熊谷市は 1 校あたり 320 人位で、隣の深谷市は 390 人位です。中学校は熊谷は 280 人位、深谷市では 390 人位となっており、1 校当たりの児童数を比較しますと、明らかに深谷市の方が多く、児童数に対して施設数が熊谷市は多いというのが分かります。太田市ですと、小学校で 500 人位、中学校も 400 人位で、熊谷市よりも多く、川越市などになるともっと多いようです。</p> <p>まず、アセットマネジメントという横文字、公共施設の施設計画と言ってますけども、まず初めに意見として、反対です。多くの皆さんがこの統合計画に、賛成する人は少ないと思います。何よりも合併の当時の約束は、サービスは絶対に低下させないというものでした。私たちも町議会議員として、合併に様々な思いを持っていますけれども、住民にとって何が重要かと言ったら、サービスです。今回、施設の 43%減らすということを前提に進めていますけれども、本当に住民の皆さんの賛成をいただけるのか。太田小と男沼小が妻沼南小にスクールバスで来るようなことで本当にいいのかということですよ。地域の男沼小や太田小の皆さんは、学校を守るために、本気で努力して、学校をつくってきたんですよ。秦小の小学校区の地域でも学校を守るために頑張ってきたんですよ。最初に 1 時間 30 分説明をして、12 時には終わりにするということですが、それはないと思いますよ。説明が 1 時間 30 分なら市民の皆さんの意見も 1 時間 30 分聞くべきですよ。30 分でおしまいという風に思っていないと思ってますけど、本当に多くの皆さんの、小学校の少ない学級かもしれないけれど、がんばって守ってきたわけですよ。学童保育などもスクールバスを使えばいいという単純な話ではなくて、地域で小学校を支え続けたわけですよ。だから、私は、お金がない、お金がないという風に言って、施設を更新するのが大変なのはわかりますよ。市の真ん中にある市営駐車場を処理してそのお金で使えばいいんじゃないですか。市議会議員に、市営駐車場をやめたほうがいいのか質問もしましたすね。小中学校の給食を自校方式からセンター方式にする、それはないと思いますよ。具体的に聞きますけど、市の市営駐車場の為にどのくらい使っているんですか。</p>
<p>市職員</p>	<p>この説明会は先週から始まって、エリアごとに今週と来週説明させてもらって、学校の統廃合で、秦小・男沼小・太田小・市田小・星宮小では、地域説明会を個別に開催します。また、次第の下に施設マネジメント課の連絡先もあるのですが、電話またはメールなどで、ご意見ご質問をいただければと思います。</p>

<p>市民</p>	<p>すみません。あと五分しかないので飛び入りで。私もさくらめいとで先週同じ説明会を受けました。その日あまりに資料が多く時間もなかったので、一点だけ意見をお話します。学校のプールについて、家に帰り資料を見て、いろいろ疑問点が湧いてきたのですが、最終的にプールについてだけ、私の話をさせていただきます。よろしいでしょうか。資料を市の方にもお渡ししてありますけども、今日は説明会ありがとうございます。説明会の内容が前回よくわからなかったので、よく家で読んで意見をまとめてきましたので、発表させていただきます。学校のプールは残してほしいというのが私の意見です。理由は子供たちにとって夏の思い出といえばプールです。学校プールに通うことも輝かしい思い出となります。学校プールは夏の季節を感じる貴重な体験の場となります。妻沼にも市民プールはあったため、泳ぎに行っただけですけども、楽しくこどもたちと泳ぎできました。それがあつという間になくなってしましまして、非常にさみしい思いをしました。校外方式ですと非常に時間がかかり水泳施設から遠い学校ほど、大変な思いをすることになります。また、水泳指導を2時間で行うと、変則的で、複雑な指導計画を組むこととなります。指導要領では週3時間体育の時間が決められていますけども、2時間、移動とプールだけに充ててしまうこととなります。4つ目ですけど、プールは平時に防火水槽の役割があり、災害時には大切な水源になると思います。水源というのは水洗トイレに使ったりすると思います。</p> <p>次に質問です。各施設のプール使用時間をどのようにして組むのでしょうか、例えば各学校の都合を聞いてプール施設側が使用時間を組むのか、小体連や中体連を含むそれぞれの担当者が一堂に集まって決めるのか。2つ目は、アクアピアには私も含めて一般の人も泳ぎに来ています。私も年間パスポートで泳いでいますけども、半分のコースを使うとなると4コースです。そこに3クラスの100人近くの児童が泳ぐとなると、1コース25人で泳ぎ、指導者やインストラクターの5人を含めて泳ぐとなると安全なのでしょうか。次に、アクアピアと民間委託のプールだけで、年間を通して、市内全部の学校の児童生徒を受け入れるだけのキャパシティがあるのか、それを確保できるのか。また、学校にプールがなくなった場合、災害における避難所としての水洗トイレ等の水源確保はどうなるのでしょうか。少なくとも私は、小学校では自校プールで空と風と夏の景色を感じながら先生方と子供たちが一緒になって水と触れ合い、学習を進めるのが望ましい形だと考えています。以上です。</p>
<p>市職員</p>	<p>質問にお答えしたいと思います。まず1番目の時間割はだれが組むのかという問題なんですけれども、当然学校の先生と指導員のほうで考えさせていただきます。もちろん校長会であるとか、小体連の方や中体連の方と顔を合わせて、報告させていただく予定です。</p> <p>2番目のアクアピアの関係ですけども、基本的にどう使うかは今後詳細を</p>

	<p>決めていくことになると思います。民間施設などに聞いてみると原則 20 人に 1 名程度インストラクターがついているようなので、それを目安として、当然、学校の方もプールのほうに一緒に同行したいと思います。</p> <p>3 つめですけれども、年間を通して受け入れが可能かという点なんですけど、現状順次の校外方式の導入となりますので、もちろん今の容量で足りない場合はアクアピアの新設も考えておりますので、容量に合わせてアクアピアの新設を考えております。</p> <p>4 つめですけれども、避難場所としているということなんですけども、防火の機能としては、防火水槽が各学校のほうにもございますので、そちらのほうで防火対策は、考えています。また生活用水的なものについては、給水車での対応が一般的かと考えています。以上です。</p> <p>今の計画を聞いていると学校の統廃合ありきで検討されているのではないかなど。統廃合の中で、地元には体育館を置くから我慢するよと言っているように聞こえた。今回の計画の中で、一番の犠牲者は誰なのかを、私は今考えていました。子供が遠くまで通うというのは、はたして望んでいることなのでしょうか。この説明会の中で、子供の意見は、反映されていないと思うので、子どもからの意見も取り入れて、もっと幅広く考えてほしい。子供たちが遠くのところまで通い、遠くのプールに行く時に、どのような対応をするのか不安ですし、スクールバスを出すからいいのではないかというわけではなく、部活動のたびに随時出すのか。子供を優先した計画を考えてほしい。学校がない地域というのは、どんどん若い世代がいなくなっていつてる。子供を遠くの学校に通わせるなら、学校の近くに移り住もうという現象も埼玉県内で起きている。そうなってくると、妻沼の西も東もお年寄りしかいなくなる。そういうところも考慮して、考えていただけたらと思います。以上です。</p>
市職員	<p>ありがとうございました。参考にさせていただきます。</p>
市民	<p>基本的には、絶対に反対です。小学校や中学校を統廃合するというと、熊谷市の学校が無くなってしまわないかという心配を抱きました。また高齢者が公共施設へ行く時の足がないというのを考えているのかどうか。バスがあるだけで、終わらせてしまおうとしたら、非常に不十分です。だから、この統合案には、絶対に反対です。以上です。</p>
市民	<p>私は、資料 4 の 1 番最後のページの妻沼東の 1 丁目から 5 丁目の地域コミュニティセンターで地元譲渡と書かれていますが、地元譲渡と簡単に説明されていますが、これがどういうことか知りたいです。妻沼東の住民は、なんでも自前でやりなさいと言われていたようにとらえます。正直、理解に苦</p>

	<p>しみます。以上です。</p>
市職員	<p>妻沼地区の地域コミュニティセンターは、他の地域と設置の経緯が違って おり、旧熊谷地域は、民間で建てております。妻沼地区では区画整理をした 際に、町でコミュニティセンターを設置した経緯がございます。今のところ、 施設管理については、委託契約を結びまして、それぞれの自治会で管理して おります。今後につきましては、旧熊谷地域と同じような状況に進めていく ために、地元住民の方々と、そのような時期になりましたら、再度考えてい きたいと考えております。</p>
市職員	<p>申し訳ございません。時間の方がございまして、今回説明した分量が多か ったのですが、こちらの説明を皆さんにいち早く説明することが、今回の説 明会の主旨です。また、小中学校の統廃合については、地域ごとに説明会を 開催していきます。また、市政宅配講座でもアセットマネジメントに関する 説明を行う機会を設けさせていただきます。そして、次第の一番下に、施設 マネジメント課の電話番号・メールアドレスが載っておりますので、何かご 意見・ご質問がありましたら、お聞きかせください。来週 13 日は、太田小 にて、地域説明会を開催いたします。21 日に秦小でやります。27 日に男沼 小でやっていくようなスケジュールになっております。</p>
市職員	<p>先ほど担当の者から、統廃合を考えている各小学校区ごとに、地域説明会 を行いますと答えましたが、私たちもこの内容をみなさんに丁寧に説明した いと考えておりますので、地域で日程をまとめていただけたら、伺わせてい ただくことができます。しっかり説明を行いたいと思っておりますので、ぜ ひ施設マネジメント課に問い合わせただいたらと思います、皆さん学校 のことが一番気になったと思います。私自身が子どものころは、小学校 1 学 年 6 クラス、中学校では 1 学年 9 クラスという状況のなかで暮らしてきまし た。今日参加いただいている皆さんもそのようなたくさんの友達がいる中で 過ごされていたのではないかと思います。今の子供たちは皆さんの子どもの 時よりも少ない友達の中で過ごしていて、今後さらに同級生が少なくなりま す。私自身いじめを受けたこともありましたが、人数が多かったため、クラ ス替えなどの対応もできましたが、人数がいないとそのようなことがしても らえないと思います。子供たちは宝であり、私たちも同級生がいっぱいいる ような熊谷市にしたいと思っているので、是非お子さんからの意見も伺えたら と思います。是非地域でまとめていただきたいと考えております。</p>
市民	<p>太田小の者ですが、来週は、皆さん来てくれるのですか？そこで今日出た 意見はいただけるのですか。</p>

市職員	メンバーは、変わりますが、本日と同じ質問をしてもらっても問題ないです。よろしくお願いいたします。それでは、本日の説明会を終了させていただきます。
-----	--